

出会い

No. 94 2026. 4. 6

キリスト教委員会



「天におられるわたしたちの父よ、御名が崇められますように。¹⁰御国が来ますように。御心が行われますように、天におけるように地の上にも」
(マタイによる福音書 6章9-10節)

写真はエルサレムのオリヴ山にあるバテル・ノステル(主の祈り)教会です(ウィキペディア「主の祈りの教会」より転載)。この教会の下でイエスが主の祈りを教えたという伝説が信じられてきたことから、教会の回廊や壁には、100以上の言語の主の祈りの銘板が飾られています(写真は下段の左からラテン語、古代ギリシャ語、日本語の順【ウィキペディア「主の祈りの教会」より転載】)。2-3頁で論じられているように、主の祈りが求める飢餓や貧困のない真に平和な世界と一緒に実現していきたいと願っています。

食を通して生命を支える (マタイによる福音書 6章9-13節)

—— 主の祈りと酪農学園大学の使命 ——

循環農学類キリスト教応用倫理学研究室 小林 昭博

奇跡の『出会い』に感謝

獣医保健看護学類 動物生命科学ユニット 宮庄 拓

新入生へのメッセージとキリスト者学生会の紹介

循環農学類 2年 山口たから

大学礼拝への招待 ~真理を追い求めて~

学園宗教主事 朴 美愛

食を通して生命を支える (マタイによる福音書 6章9-13節)

—— 主の祈りと酪農学園大学の使命 ——

循環農学類キリスト教応用倫理学研究室 小林 昭博



11来る日のわたしたちのパンをわたしたちに今日与えてください。

(マタイによる福音書 6章11節 [私訳])

主の祈り——イエスが教えた祈り

「主の祈り」(Oratio Dominica) はイエスが教えた祈りであり、最重要の祈りとして、2千年にわたって教会の礼拝や集会および個人的に唱えられてきました。この祈りは、冒頭の呼び掛けの言葉から、伝統的には「我らの父よ」(Pater Noster) という名称で呼ばれているのですが、日本の教会では、「主の祈り」(プロテスタント)、「主禱文」(カトリック)、「天主經」(正教会) といった名称で呼ばれています。

主の祈りはマタイ版 (マタイ福音書 6章9-13節) とルカ版 (ルカ福音書 11章2-4節) によって伝えられています。より短いルカ版がイエスの教えた祈りの原型に近いと考えられているのですが、1世紀末に帰されるディダケー (十二使徒の教訓) 8章2節が伝える主の祈りから推し量ると、マタイ版に類する伝承が基本型となっており、主の祈りとして継承されてきたことがうかがわれます。

主の祈りの視座——イエスの眼差し

主の祈りは古代のラテン教父テルトゥリアヌス (160年頃～220年頃) によって「福音書全体の要約」(breviarium totius evangelii) と呼ばれており、この祈りが古代から重要な位置づけをされていたことが分かります。

主の祈りは教会が最も大切な祈りとして伝承してきたことから、宗教的な祈願によって編まれていると考えられがちですが、実際には現実の生活に根差した人々の日常の願いを内容にしています。ここには宗教が日常から分離した特別な節目であるハレの日の行事や催事 (祭事) になっている現代の日本社会と宗教が日常生活の隅々までを覆っていた古代社会との相違があ

ります。もっとも、現代でも、キリスト教、イスラームおよび仏教 (上座部仏教) などの文化圏では、宗教が日常生活の全体に関わっていますので、特に不思議ではないと言えるかもしれません。

しかし、イエスが主の祈りにおいて示しているのは、単なる日常生活の問題を超えて、生活に困窮する人たちの現実に根差した願いです。11節の「わたしたちに必要な糧を今日与えてください」という祈願は、その日のパンに事欠く人たちの切実な願いを表しているからです。そして、12節の「わたしたちの負い目を赦してください、わたしたちも自分に負い目のある人を赦しましたように」という祈願に関して言えば、新共同訳聖書が「負い目」と訳しているギリシャ語のὀφείλημα (オフエイレマ) は「借金」を意味する語ですので、生活に必要な僅かな借財に困窮する人たちの心情が吐露されていると言えるのです。

古代世界の飢餓——次の食事の心配

イエスが生きた古代のパレスティナ社会はローマ帝国の支配と圧政も相俟って、多くの難民が生じ、その日の食事に事欠く人たちが大勢いたことが知られています。そのような古代世界の社会的な状況を念頭に置いて11節の祈願を読むと、その意味がより鮮明になって追ってきます。

先に引用したように、11節は新共同訳聖書では「わたしたちに必要な糧を今日与えてください」と翻訳されているのですが、より正確にギリシャ語原文を翻訳すると、「来る日のわたしたちのパンをわたしたちに今日与えてください」となります。新共同訳が「必要な」と訳し、私訳では「来る日の」と翻訳したのはἐπιούσιος

(エビウシオス)という形容詞ですが、これは朝の祈りの場合にはその日の夜を指し、夜の祈りの場合には翌朝を表す古代のギリシャ語の独特の表現です。要するに、次の食事で食べるパンを今日のうちに与えて欲しいと祈っているということです。今日の夜のパンや明日の朝のパンという直近に食べる食事に困窮しているからこそ、次の食事(パン)が今日のうちに手許にあるということだけで、どれほど安心できるかという古代の飢餓と貧困の現実の直中で生み出されたのが11節の祈りなのです。

現代世界の飢餓——絶対的貧困

しかし、今日のパンに事欠く人たちがいるということは、何も古代世界だけの問題ではなく、現代世界にも共通する問題だということは、アジア、アフリカ、パレスティナ・ガザなどの実態を通して、わたしたちにも知らされています。それゆえにこそ、SDGsの目標2に「飢餓をゼロに」が掲げられる必要があるということでしょうし、飢餓はこの世界が抱える逼迫した問題であり続けているのです。

ユニセフの調査によれば、世界の総人口80億人の9.2%に当たる7億3500万人が飢餓に直面していると推定されています。そして、年間282万7180~719万1120人もの人たちが飢餓によって命を落としているとの推計も出されているのです。これほどの夥しい人たちが飢餓という絶対的貧困に喘いでいる現実を考えると、「来る日のわたしたちのパンをわたしたちに今日与えてください」と願う主の祈りは、現代世界の切実な祈りでもあらうと言えるのです。

現代日本の貧困——相対的貧困

このような絶対的貧困の問題は日本ではあまり深刻化してはいないのかもしれませんが、先進国の貧困の指標として知られる相対的貧困の観点から見ると、日本の相対的貧困率は15.7%に上り、人口に換算すると1900万人という膨大な数に達します。しかも、ひとり親世帯(134万4000世帯)——とりわけ母子世帯(119万5000世帯)——の半数近い44.5%が相対的貧困の状況にあるとの統計が出されているのです(厚生労働省「国民生活基礎調査の概況」)。

また、日本において飢餓を経験した人は総人口の5.1%に相当する613万人に上ると言われています。報道やCMなどでは給食を主栄養にしている子どもたちの実情が伝えられており、子ども食堂を実施するNPO法人や教会が増えて

いることから、日本でも貧困が広がっていることがうかがわれます。

このような日本社会の現実を考えると、「来る日のわたしたちのパンをわたしたちに今日与えてください」と願う主の祈りは、現代日本にも切実さを持って必要とされていると言えるのです。

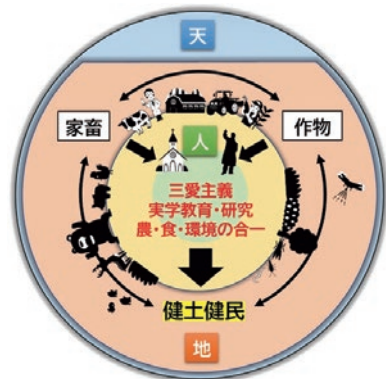
食を通して生命を支える

——主の祈りと酪農学園大学の使命

酪農学園大学は創立者の黒澤西蔵先生が提唱した聖書とキリスト教精神に基づく三愛精神と健土健民を建学の精神として掲げ、SDGsに先駆けて飢餓と貧困の問題にも資する循環農法を実践する教育と研究に邁進してきました。

下図は前学長の堂地修先生(現名誉教授)から宗教主任に委任され、組織した「酪農学園が目指すSDGsに適合した次世代循環社会モデル図の作成WG」が作成した循環農法図の現代版である「次世代循環社会モデル図」(循環農学類:小八重善裕教授作図)です。ここには2026年度から2学群、6学類として新たな歩みを始めた本学の使命が体现されています。そして、このモデル図が依拠しているのが主の祈りに示されているイエスの視座であり、そこに「食を通して生命を支える」という酪農学園大学の使命があります。

そして、入学生のみなさんにも、人間の根源に関わる「食を通して生命を支える」という本学の使命を一緒に担い、飢餓や貧困のない真に平和な世界を共に実現する三愛主義と健土健民の実践者に成って欲しいと願っています。



【次世代循環社会モデル図】

奇跡の『出会い』に感謝

獣医保健看護学類 動物生命科学ユニット 宮庄 拓



新入生の皆さん、酪農学園大学ようこそ！皆さんのご入学を、そして酪農学園生への仲間入りを心から歓迎致します！私も酪農学園大学の卒業生（獣医学科（当時）29期生）です。この大学で学び、遊び、育ち、その後、教えてきたからこそ、この酪農学園大学で感じてきたことを、少し“先輩面”して、新入生の皆さんにお話ししたいと思います。

●生命の大切さ

酪農学園大学は様々な形で『生命』について学ぶことが出来る大学です。これから皆さんも自然や動物や植物や人から生命の尊さや素晴らしさ、生命がもたらしてくれる恵みの深さをたくさん学ぶと思います。

私たちは教育や研究のために、大切な生命を犠牲にして学ぶことも多くあります。人が生活していく上で必要な生命から、私たちがさらに多くの生命を救うための生命まで。私たちは決してその生命を無駄にはしてはいけません。私もこれまで多くの生命をいただき、教育や研究をしてきましたが、一度もその生命を軽く考えて扱ったこと



はありません。

酪農学園大学では年に1度、獣医学群が中心となって『動物記念祭』を行っています。動物記念祭は酪農学園大学で教育や研究のために用いられた動物たちや、附属動物医療センターにおいて治療の甲斐なく亡くなった動物たちの尊い命を思い、追悼と感謝の祈りを捧げる礼拝です。（礼拝ですので「祭（さい）」なのです。）私たちは動物たちの生命に感謝して、礼拝を捧げています。

このように酪農学園大学では、生命の大切さを、『感謝』の気持ちを持って学べる大学です。

●出会い

この冊子の題でもありますが、これから皆さんはこの酪農学園大学で多くの人との『出会い』があるでしょう。

人に会おうということは奇跡的なことだと思いませんか？人類が地球上に誕生してから30万年くらいと考えられています。その間におよそ1,000億人という人がこの地球上に存在したと考えられています。現在存在する人でもおよそ82億人（2025年現在）と言われています。その中で、この時、この場所で会える確率は途方もなく天文学的な数字であることは容易に想像出来るでしょう。この時、この場所に居てもすれ違うだけの人や名前を知ることもない人の方が多いのも普段の生活から分かるでしょう。逆に、例えば1秒でもズレていれば、隣に居ることさえなかった人もいるでしょう。その中で『出会う人』は、これはもう『神の御業（みわざ）』としか考えられません。

たまたま同じ大学の同級生になったのではありません。たまたまあなたの先生になったのではありません。そこには必ず意味があると、つまり『神の御心（みこころ）』があると私は思っています。だから、皆さん、是非、これからの大学生活の中で、多くの人との出会いに『感謝』して、その出会いを大事にして下さい。

●感謝すること

これまでお話した『生命の大切さ』や『出会い』のメッセージには『感謝すること』がともに入っていることに気が付きましたか？私は皆さんにこの酪農学園大学で『感謝する気持ち』を

学んで欲しいと切に願っています。

大学生活の中では多くの喜びや楽しみが訪れると思いますが、それと同時に多くの悲しみや苦しみも訪れる可能性があると思います。そんな時のために私は皆さんにひとつの聖書の言葉を贈りたいと思います。

『いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。』

（テサロニケの信徒への手紙一

5章16-18節）

これは私が人生の糧としている聖書の言葉です。生きていく中では悲しいことや苦しいことも多くあります。しかし、それは『神の御業』であり、そこには『神の御心』があると思います。だから私はどんなに悲しいことや苦しいことがあっても、『いつも喜び、いつも感謝して』日々を過ごしています。そして、この酪農学園大学は、この神様が『あなたがたに望んでおられること』をいつでも出来る大学なのです。

皆さんも是非、これからの酪農学園大学での生活の中で、『生命の大切さ』を学び、多くの『出会い』を大切にし、それを『いつも喜び、いつも感謝して』学生生活を大いに楽しんで過ごして下さい。酪農学園大学は楽しい大学ですよ！

新入生へのメッセージとキリスト者学生会の紹介



循環農学類2年 山口たから

新入生の皆さん、酪農学園大学へのご入学おめでとうございます。皆さんはどのような大学生活を思い浮かべているのでしょうか。人との出会いや仲間ができる喜び、たくさんの楽しいことが待っていることでしょうか。1年間を通して私が大学生活で経験したことを書きたいと思います。皆さんの大学生活の参考に少しでもなれば幸いです。

・大学生活

これから皆さんは大学生活が始まっていく中でどのようなことが楽しみですか。また、どのようなことを学びたいですか。私はこの2つの期待と意志を持って歩み出すことが重要だと思っています。私は1年間の大学生活を送り始める時、なんとなく楽しめればいいのか。と思い大学生活をスタートした記憶があります。もちろん楽しめればいい。それだけで十分な気もしますが、そのようなスタートを切ったことに

よって私はただ与えられた課題をやって、なんの成果も果たすことなく悶々と学校に行く日々がありました。ただ周りを見渡すと目標に向かっていく友人がいて、「楽しい」だけじゃない大学生活を満喫している姿が目には焼き付きました。そこから何をしたいのかを自分に問い、明確にしていくにつれて大学生活の過ごし方は悶々と課題をこなす日々とは違い、何のためにやっているのかを考えて過ごすようになりました。入学したばかりの皆さんは時間がたくさんあると思います。広い視野と幅広い選択肢を無駄にせず、自主的に行動し、後悔のない4年間を過ごしてください。

・出会いの大切さ

大学生活は、授業や課題、サークルやアルバイトなど、様々な経験でありますが、その中でも特に大きな意味を持つのが、「出会い」です。大学に入学することで、これまでとは全く異なる価値観や背景を持つ人たちと出

会うことになります。その1つ1つの出会いは、決して当たり前のものではなく、かけがえのないものです。最初は緊張や不安から、声をかけることに勇気がいるかもしれません。しかし、何気ない挨拶や短い会話から始まった関係が、いつの間にか自分を支えてくれる大切な存在になります。私は高校の時から学校生活を共にしてきた友人がいます。同じ大学に入学してこれまでもどんな嫌なことがあっても、必ず隣にいて支えてくれる信頼できる友人がいることはとてもありがたかったです。また、お互いの価値観によってすれ違いが起こり、対立することもあり、そうした経験を通して、自分の視野が広がり、物事を多角的に考えられるようになりました。出会いは単に人間関係を築くことにとどまらず、自分自身を見つめ直し、将来へとつながる大切な学びを与えてくれます。大学で過ごす時間は長いようで、振り返るとあっという間です。その限られた日々の中で生まれる出会いを大切にしたいです。皆さんも大学生活の中で喜び

に溢れる出会いがあることを願っています。

・キリスト者学生会サークル紹介

最後にキリスト者学生会の活動内容についてご紹介したいと思います。活動内容としては、主に聖書を読みその箇所の意味を毎回配られるテキストを用いて皆で考え、話し合う、「聖書研究」ということを行なっています。聖書と聞いて堅いイメージを持つ方が多くいると思いますが、全くそんな事はなく、皆でゲームをしたり、雑談をしたり、活動後はご飯を食べに行ったりなど結構ゆるめに楽しく活動しています。また、祈り会も別の日に行なっていますので、少しでも興味を持った方はぜひ参加してください。



大学礼拝への招待

～真理を追い求めて～



学園宗教主事 朴 美愛

酪農学園大学では、キリスト教主義大学として、何より大切な時として礼拝の時間が設定されています。特に、大学礼拝はキリスト教の聖書に基づく、「建学精神」である「神を愛し、人を愛し、土を愛す」の「三愛精神」を学び、経験する時間です。

大学礼拝は黒澤記念講堂にて、毎週火曜日2時限（10：40～12：10）に行なわれます。そして、新入生だけではなく、学年と学類などの立場を超え、そして教職員を含めて、どなたでも自由に参加できるようになっています。

礼拝は真理を追い求める時間として、奨励として聖書の言葉に耳を傾け、讃美歌を歌い、祈りと共に神さまの前に自分自身を見つめる思索の時でもあります。そして、時には心のやすらぎ、時には慰め、時には勇気と希望を得ることができます。

皆さんは大学礼拝を通してあらゆることに出会い、新しい価値観と世界観を学び、視野を広く、長く、高く、深くし、これからの人生の道を歩む上で、大切なことを経験し、心身ともに成長していくと思います。

この大学礼拝の時間はキリスト教主義大学に入学したことによって得られる皆さんの特権でもあります。聖歌隊などの活動において、皆さんの積極的な参加もお待ちしております。ご一緒に大学礼拝を価値のある時間として大切に守っていきましょう！

「あなたたちは真理を知り、

真理はあなたたちを自由にする。」

（新約聖書 ヨハネによる福音書8章32節）



あ と が き

『出会い』94号(入学式号)をお届けします。新しい生活が始まり、新入生のみなさんには、楽しみなことも不安なこともたくさんあると思います。わたしたちが感じるワクワクやドキドキは、未知のものに出会うときに感じる

ものでもあり、大学で研究をしていくときに経験することのできる大切な感覚です。みなさんの前には、ドキドキとワクワクに溢れたキャンパスライフが広がっています。

(A.K.)

酪農学園大学キリスト教委員会
〒069-8501 北海道江別市文京台緑町582番地
Tel. 011 - 386 - 1111 (代表)



酪農学園大学は、2020年度(公対)日本高等教育評価機構による大学機関別認定評価において大学評価基準に適合していると認定されました。



(酪農学園大学公式サイト)